

## 製造業で労働災害が急増しています

(2022.7)

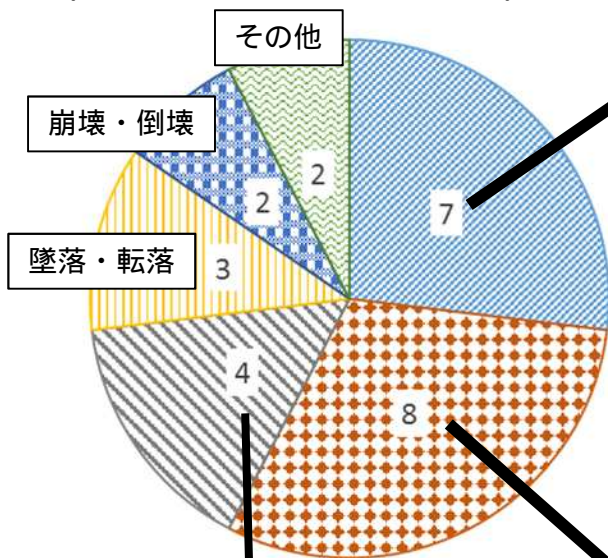
長野県内では、本年、製造業での労働災害が前年比+39.9% (+85人)と急増しており、平成15年(2003年)以降の過去20年間で最多となっています。

改めて労働災害防止対策の再点検をお願いいたします。

本年は、大雪により冬季災害が同期比較で前年の14人から45人に増加しているものの、それをはるかに上回る増加幅です

### 製造業における死亡災害

(2013~2022年、長野県、全27人)



動力機械へのはさまれ・巻き込まれ 計7人

H30	NC旋盤を本来用途の自動運転による切削加工ではなく、安全装置を無効化して保護扉を開けた状態で材料を回転させ、手でやすりを当てて研磨をしていたところ、回転軸に巻き込まれ、回転した身体が機械内部に激突した。NC旋盤は扉を閉じなければ機械が動かない構造となっていたが、当該装置を無効化していた。なお、他のNC旋盤も同様の方法で使用していた。
R3	凍結防止剤散布車の散布装置の油漏れ箇所を特定するため、一人でホッパー内に入っていた。攪拌装置を停止していなかったところ、ホッパー内の攪拌装置(凍結防止剤の凝固を防止するための回転軸)に上着ベストが巻き付き窒息した。

フォークリフト・クレーン・車両等 計8人

H30	原動機を停止せずにフォークリフトのマスト部の修理作業中、身体が操作レバーに触れ、後傾したマストとヘッドガードの間に頭部をはさまれた。
R2	天井クレーンによりH型鋼をつり上げて向きを変える作業中、当該H型鋼が横倒れし、下敷きとなった。クレーンのフックに掛かった3つのクランプのうちフリー状態の1つが巻き上げ操作により引っかかる等、何らかの原因でH型鋼が浮き上がった。【R1も類似災害あり】
H30	運転席が上下するフォークリフトを用いて、高さ3m近くの商品を棚から取り出す際、運転席とフォーク・パレットを上昇させ、パレット等の上で作業をしていたところ、高さ約2.5mからコンクリート地面へ墜落した。パレットに手すりはなく、フォークリフトに常備された安全帯と保護帽は着用していなかった。

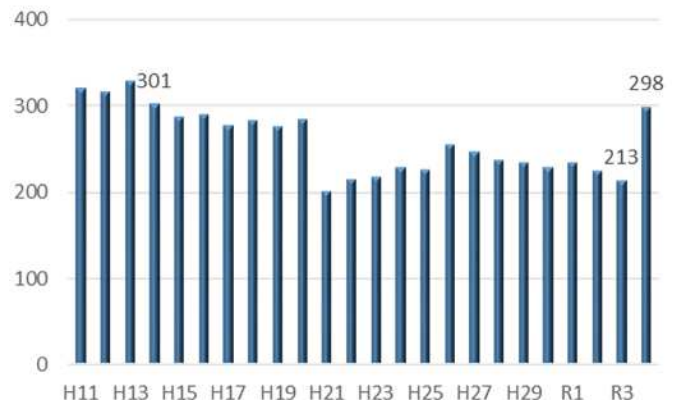
自動車整備・機械修理作業 計4人

R2	ダンプトラックの荷台後部あおり下部の車体枠の修理のため、あおり(重量:約120kg)と車体枠の間に木材を挟み作業していたところ、当該木材が外れ、あおりが頭部に激突した。
R2	タイヤ交換のため顧客の運転する乗用車を誘導中、当該乗用車が暴走し激突された。
H30	ショベルローダーをジャッキで上げ、車体下部の点検整備作業を行っていたところ、ジャッキが外れ車体と地面の間にはさまれた。【H26も類似災害あり】

墜落・転落 計3人

H29	工場トタン屋根の雨漏り補修に使用する波板を補修箇所に運ぶ際、トタン屋根部分からスレート屋根部分に乗ってしまい、スレート部分のプラスチック製の波板を踏み抜き、高さ約4.4mからコンクリート床に墜落した。
-----	--

### 製造業における休業4日以上之死傷者数 (各年6月末速報値、長野県)



注：新型コロナウイルス感染症による罹患によるもの除く (年)